

いやよは

ここは
IKバーン
挑戦者たちの
劇場だ。



海外でそんな経験を
されていたなんて!



知らなかった
意外な一面が…!



新入社員時代のお話、
聞かせてください!



愛犬家というウワサを
確かめます!

目次

- 02 営業7本部を大解説!
教えて! 本部長が考えていること
- 10 徹底解説!
NC2026「デジタル戦略」の全て
- 12 稲畑社長 海外出張レポート
メキシコ、アメリカ
- 13 News Digest

- 14 稲畑産業グループのサステナビリティ
—GHG排出量削減のカギ
「再エネ電力証書」って? 編—
- 16 人事室からのお知らせ
エンゲージメントサーベイ2024の結果と分析
- 19 海外トレーニー制度について
- 20 いなほカフェ
多様なバックグラウンドを持つメンバーで
広がるIKの可能性
- 22 アイケイファーム余市の挑戦
- 24 アイケイファーム余市での新入社員研修
に密着!
- 26 輪乗縁
- 27 OB・OGのひろば
- 28 いなほなひとびと
入社しました／ご苦労様でした／編集後記／ほか

【綴じ込み別冊】創業者漫画・IK物語「少年勝太郎(第7・8話)」

若いうちに
海外に駐在することの
メリットとは?



ポケットマネーで
ディズニーへ!?

唯一の顧客から
出禁処分に…?

営業7本部を大解説!

教えて! 本部長が考えていること

Contents

特集

営業7本部を大解説!
教えて! 本部長が考えていること

特集

徹底解説!
NC2026「デジタル戦略」の全て

人事室からのお知らせ

エンゲージメントサーベイ2024の結果と分析

いなほカフェ

多様なバックグラウンドを持つメンバーで広がるIKの可能性

特集

アイケイファーム余市の挑戦



News Digest

稻畑産業のさまざまな出来事をお伝えします。

4/17~19

情三「ファッションワールド 東京 2024春」に出展



情報電子第三本部は、東京ビッグサイトで開催されたファッションの展示会に出演しました。本展示会出展は、昨年10月開催の秋展に続き2回目です。出展ブースでは当社が代理店を務める住友化学(株)の温調繊維を紹介しました。この温調繊維は、同様の繊維では成し得なかった広範囲の温度域で吸熱と放熱が可能で、下記の機能を担保できます。

- ・持続冷感／持続温感
- ・接触冷感
- ・涼感性（速乾性+気化熱による冷感性）

(情報電子第三本部)

6/3

2024年3月期 オンライン決算説明会を開催

機関投資家とアナリスト、メディア向けに「2024年3月期 決算説明会」をオンラインによるライブ配信にて開催しました。説明会では横田専務が決算に関する計数の概要を説明し、稻畑社長が中期経営計画「NC2023」の達成状況および新中期経営計画「NC2026」の概要について話しました。参加者からは、売上高、営業利益3期連続過去最高を更新した背景や、「NC2026」の全社成長戦略のポイントについて質問がありました。

(財務経営管理室)

6/21

第163回定時株主総会を開催

東京・日本橋蛎殻町のロイヤルパークホテルにて、第163回定時株主総会が開催されました。総会にて上程された各議案はすべて承認可決されました。各議案は次のとおりです。

第1号議案:取締役(監査等委員である取締役を除く。)7名選任の件

第2号議案:監査等委員である取締役4名選任の件

(総務広報室)

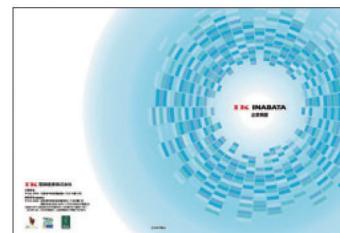


7/31・8/30

企業概要2024(日本語版・英語版)を発行

企業概要2024(日本語版・英語版)を発行しました。表紙のデザインは、日本の伝統的な図柄である市松模様が示す連續性を、モーデートブルーの持つ調和や平和といった意味に沿って表現しています。会社紹介のツールとして広くご活用ください。

(総務広報室)



8/8

「JPX日経インデックス400」の構成銘柄に2年連続選定

当社は2024年8月、(株)JPX総研および(株)日本経済新聞社が共同で算出する「JPX日経インデックス400」の構成銘柄に、昨年に続き2年連続選定されました。選定には、ROEや営業利益、時価総額などの定量的な指標に加え、独立した社外取締役や女性役員の選任などの定性的な要素も加味されます。

(財務経営管理室)



7/4~8/8

社長懇談会「稻畑の未来を考える～社長と語ろう～」を開催



7月4日から10月17日にかけて全8回実施する予定の社長懇談会について、第1回から第3回までが終了しました。全社アンケートでテーマアップした8つのテーマから以下3つをそれぞれ取り上げ、合計27名が参加しました。懇談会では改めて当社の強みや機能について問う意見や、組織活性化のための働き方やキャリアプランの在り方、今後の投資の方向性等について、社長を含めた参加者全員で、活発な議論が交わされました。

7月4日 第1回「当社の機能の現在と将来」

7月19日 第2回「当社でのキャリアプランの構築について①
（定年延長に関わる制度について）」

8月8日 第3回「投資について」

(総務広報室・人事室)

アイケイファーム余市の挑戦

カナダと地元の知恵を生かした ブルーベリー栽培

当社(生活産業本部)とカナダのSilver Valley Farmsが共同出資したアイケイファーム余市は、

日本最大のブルーベリー栽培面積を誇る。

設立から9年が経ち、どのような苦労や工夫をしてきたのか、現地のマネージャーである杠さんに話を伺った。



ブルーベリーに付いている白い粉は「ブルーム(果粉)」と呼ばれ、果実から分泌されています。栄養素と鮮度を守る役割なので、そのまま食べても問題ないです。

地域の方々との友好関係が ブルーベリー栽培に生きる

もともと輸入冷凍ブルーベリーの国内最大手だった稻畑産業。おいしいブルーベリーを日本で栽培できないかという思いから、カナダ最大規模のブルーベリー栽培業者であるSilver Valley Farmsと共同で出資し、2015年に北海道の余市町に誕生したのがアイケイファーム余市である。ブルーベリーの産地は東京や長野、大分など全国津々浦々にあるが、年間積算温度が高く、ブルーベリー栽培に適した酸性土壌というカナダ西海岸に似た栽培環境であること、規模化による効率化が可能な土地であることなどの理由で余市町が選定された。

しかし、土地が決まった後も農地貸借の問題で一度計画が白紙になるなど、さまざまな苦労があった。そんなアイケイファーム余市も設立から9年が経ち、現在は20haの農場で合計約3万3,000本のブルーベリーを育てており、ブルーカロップをはじめ11品種を栽培している。

設立当初は、農業経験がない大手企業がいきなり農業を始めるやつってきたものの、本当に続くのか、と周りの農家の方々から冷ややかな目で見られることもあった。しかし、現在では地元の人との友好な関係を築くに至る。「現在の地元の方との友好関係は、設立以前の準備段階から、しっかりと農業に取り組み本気度を伝え、地元のイベントへの参加などを通じて関係性を築こうと頑張ってくれた先人たちのおかげです」と2019年に赴任してきた杠さんは語る。

今では、カナダ西海岸とは異なり、雪の降

る北海道での冬期の農業のやり方などを地元の農家人から学び、ブルーベリー栽培に生かしている。また、2018年には同町と包括連携協定を締結し、町長をはじめとする関係者との友好な関係を築き、積極的に協力を得ている。

「おいしい」を多くの人に 届けるために

杠さんが良かった点として挙げるのは、おいしいと評判のブルーベリーを作れたことだ。「『おいしいのでもっと欲しい』と言ってくれるお客様も出てきました。一昨年、昨年からは大手小売店などでの販売も開始しました。当社や稻畑ファインテックの営業活動のおかげで、直販できている点が強みです。また、3年前から同町のふるさと納税の返礼品に選ばれ、今年は昨年の20倍以上の1,500件余りの申し込みがありました」と笑顔で語る。

一方で、課題も山積しているといふ。「現在でもアルバイトの人数の問題やオペレーションの問題などがあります。ただ、これまでの経験を踏まえて問題解決までのステップが見えている状態です」と杠さんは話す。収穫量は年々増えており、今年は66tの収穫になる見込みである。

杠さんは、農業は危機管理能力、リスク管理能力を養う絶好の現場だと言う。「ぜひアイケイファーム余市に来て、現場と触れ合い、そこから学ぶことの大切さを実感してほしいです」と社員へ呼びかける。

アイケイファーム余市の強みと 今後の展望

アイケイファーム余市の強みは、ブルーベリーの質の高さにある。その要因として、杠さんはデータ管理、土地整備、丁寧な作業、さまざまな知識の活用などを挙げる。具体的には土地整備面で地下に暗渠という水路と、畝に灌水チューブを設置し、常に適切な水量を保てるようにしている。また、おがくずを撒いて保水効果と除草効果を維持したり、冬になるとブルーベリーの木1本1本に冬囲いを行って保護したりと、日々の丁寧な作業も欠かさない。ブルーベリー栽培のプロであるSilver Valley Farmsの社長も年に2回ほど訪れ、畑をチェック。カナダの知恵を取り入れて、より良いものになるように試行錯誤している。

今後の展望として、杠さんは、おいしいブルーベリーを作り続けることはもちろんのこと、加工品や販売先の拡大も目指しているといふ。「ブルーベリー単体だけでなく、加工品を増やす。そして加工品をもっと広めて、一緒に売って、売上を伸ばして知名度も上げていくことです」と語る。最終目標は機械化により生産性を上げることと、アイケイファーム余市のおいしいブルーベリーを多くの人に召し上がっていただき、笑顔と感動を届けることだといふ。



加工品の
ブルーベリー
コンポート